発表順６　１５：００～

Ｃグループ　研究報告書　サマリー

誰もがイノベーション人材になれる社会

１.解決すべき課題

(1)イノベーション人材の不足

【背景】ICT・AI 分野の技術進歩による急速な変化が見込まれ、個人と社会の成長につながる新たな価値の創出が求められる中、少子化・高齢化を背景として生産年齢人口が減少する日本においてイノベーション人材が求められる。

２.問題意識

(1)私たちはイノベーションを「小さくても社会のよい変化に結び付くもの」と定義する。

(2)イノベーションは、一部のエリートが起こす、インパクトが大きく派手なものである必要はない。

(3)こうしたイノベーションを起こしうる人材は、義務教育後の高校教育を通じて増やすことができるのではないか。

(4)イノベーション人材を有する企業の「求める人材像」の分析から、イノベーションを起こす力として必要な３つの力は、①強い意志や情熱を持ち、努力・成長し続けること、②自身だけでなく、周りを巻き込んでいくこと、③時代の変化に適応し、前例にとらわれないこと。

(分析対象：トヨタ、アマゾン、パナソニック、楽天、フジテレビジョン、サントリー、江崎グリコ、ベネッセ等)

３.現在見られる課題解決策とその問題点

(1)高等学校学習指導要領（平成 30 年改訂）における「育成すべき資質・能力の３本柱」⇒「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」及び「学びに向かう力、人間性等の涵養」を掲げており、イノベーション人材育成に寄与する要素を含む。

（問題点）教育の現場では、自ら潜在的な課題を掘り起こし、解決を見出す力を養成するための取り組みが十分に行われていない。

４.グループとして考える課題解決策と、課題解決までの道筋

【解決策①】学習指導要領にイノベーション的概念を含める

「三つの柱」の目的を明確に方向付ける概念として、「閃き、発想を具現化する力を養成すること」を学習指導要領に追加し、養成する力の主眼を、型の学習及び展開から、イノベーションを起こす力へとシフトさせる。

【解決策②】「イノベーション科目」の創設

自分たちでどのように「社会に良い変化を与えるもの」を創造するかを教育の現場で徹底的に考え、実際に行動して成果を出すことで「閃き、発想を具現化する力」を身に付ける。

（課題解決への道筋）学年が上がるごとにイノベーション理解を深化させ、実践へと進むようカリキュラムを構築する。

【解決策③】各科目を通してイノベーションを学ぶ

各科目でイノベーション人材に必要な要素を育成する。（社会、国語、体育等）

（社会の例）歴史上の出来事を追って暗記するだけでなく、その背景を考えさせる。提示されたある国の情報から「その国の経済力を高めるにはどうするか」などを考えさせる。

５.課題解決策の効果・副作用・残された課題

(1)イノベーション科目の創設

残された課題：生徒・教員の負担増の解消、大学入試科目への導入方法

(2)科目を通して学ぶイノベーション

残された課題:現行カリキュラムとの時間配分調整